

宮下氏、圧倒的な強さで青森県のトップリーダーに！ 県内全自治体で 50%以上の得票率、むつ下北地域では 93%を獲得

ご承知のように 6 月 4 日の県知事選は宮下元むつ市長の圧勝で幕を閉じました。県政変革を訴えた強力な発信力の勝利とも言えます。宮下氏が得意とする無党派層に対するイメージ戦略が保守層まで巻き込むという従来型の組織選挙を一変させる形で獲得した勝利です。

県内保守政界を二分した選挙戦、今後の青森県政、そして立憲民主議員の立ち位置は大いに気掛かりです。

宮下新知事の政治スタンスは改憲、核燃サイクル政策堅持と私たちの主張とは大きな隔たりはありますが、住民の『いのちとくらし』を第一義に考える県政をハッキリと示していただくことを強く願うばかりです。活躍を期待します！

今更ですが、中日新聞による候補者アンケート結果です。	質問 むつ市の中間貯蔵施設で関西電力の使用済み核燃料を受け入れますか	
	回答 (選択式)	理由 (自由記述)
	宮下 宗一郎さん	その他 むつ市長時代に対応している通り。 ※むつ市長時代の2021年4月の本紙取材に「可能性はゼロ」と回答
	横垣 成年さん	拒否する 2005年締結の協定書は、東京電力と日本原子力発電のみで、関西電力は論外
	小野寺 晃彦さん	拒否する むつ市の施設はむつ市、青森県、東京電力、日本原子力発電の4者協定を経て国から事業認可を受けたものであり、関西電力の事業とは切り離すべき。

今回及び過去の知事選得票数

年次	候補者	得票数
2023年	宮下 宗一郎	404,358
	小野寺 晃彦	174,155
	横垣 成年	10,516
	楠田 謙信	4,769
2019年	三村 申吾	329,048
	佐原 若子	105,466
2015年	三村 申吾	355,914
	大竹 進	127,525

今回のむつ下北地域の知事選得票数

自治体	有権者数	投票率	宮下 宗一郎	小野寺 晃彦	横垣 成年	楠田 謙信
むつ市	45,976	73.33%	31,182	1,783	476	129
大間町	4,151	67.38%	2,659	102	24	3
東通村	5,075	72.91%	3,425	235	19	15
風間浦村	1,500	79.00%	1,130	44	8	3
佐井村	1,560	72.44%	1,036	77	9	4
合計	58,262	72.99%	39,432	2,241	536	154
得票率	***	***	93.1%	5.3%	1.3%	0.4%
県合計	1,044,657	57.05%	404,358	174,155	10,516	4,769
県得票率	***	***	68.10%	29.33%	1.77%	0.80%

横垣候補、憲法擁護、脱原子力を懸命に訴え続けました

「青森県最大の対決軸を県民に示すことが絶対必要」との強い決意で厳しい闘いに立ち上がった横垣さん。むつ市議会議員としては十分な実績を持ちますが全県的には知名度ゼロのなかでの闘いでした。選挙期間中、下北入りは 24～25 日の 2 日間でしたが精力的に「核燃に頼らない青森県、大湊大型弾薬庫新設を許さない」と訴えました。マエダ本店前の街頭演説にはフォーラム下北からも応援のあいさつに立たせていただきました。

ポスター行動など協力をいただいた会員の方々にもお礼申し上げます。



5 月 25 日、むつ市内で街頭演説

無念！青森市長選 大竹進氏も当選には及びませんでした

知事選挙と同時に行われた青森市長選挙で大竹進さんが挑みましたが、出遅れや病院業務を通常通り行いながらの限られた時間での行動であったことなどから残念な結果に終わりました。今後も佐井村などの地域医療活動や県内の市民運動のリーダーとしてご活躍されることを願うものです。

【大竹進さんの facebook より転載】 皆さんからたくさんの応援ありがとうございました。市長選、知事選とも大敗しました。候補者として皆様の期待に応えられず、お詫び申し上げますとともに、寄せられたご支援に心から感謝申し上げます。結果を分析し、今後の運動を立て直したいと思えます。市長選挙では、若い方たちも子供さんを連れて参加していただきました。今後、新しいネットワークが広がることを期待しています。



診療時間の合間を縫っての街頭演説です

下北地域9条の会第7回定期総会

総会前に故木下千代治共同代表を偲ぶ講演会を開催しました ～元県議の建部玲子氏が木下氏の思い出と自らの護憲活動を語りました～

下北地域9条の会は5月14日、下北文化会館で第7回定期総会を開催しました。総会に先立ち、昨年12月に逝去された木下千代治共同代表を偲び、黙祷を捧げた後、元県議会議員の建部玲子氏を講師に招き、追悼講演会を開催しました。建部さんは青森社会福祉振興団（みちのく荘などを運営）前理事長で故人と同時期に県議会議員

を歴任していました。

講演は1時間程度、木下さんとの出会いや議員時代の逸話や氏の政治信条を紹介しながら、合わせて自らの平和運動の経験や今日の政治情勢などをわかり易く話されました。また、講演会には木下さんのお二人の娘さんも参加し、建部さんのお話に聞き入っていました。



講演する建部玲子さん



総会開会あいさつの畑中代表



在りし日の故木下さん

総会では大型弾薬庫新設への反対行動などの新年度方針を確認しました

講演終了後の総会では畑中代表のあいさつに続き、来賓として目時フォーラム代表や杉浦市議、櫛部共産党委員長が列席し、それぞれ連帯のあいさつを述べました。その後、村上事務局長より経過報告、活動方針が提案され、いずれも原案通り可決されました。県9条の会からは金沢代表のメッセージが届けられました。

新方針では喫緊の課題として大湊地区への大型弾薬庫の新設計画に反対することなどを確認しました。



来賓の目時代表



来賓の杉浦市議

【確認された新年度活動方針（抜粋）】

《はじめに》

軍事同盟は「敵国」を想定し、「敵国」とされた相手は当然負けないだけの軍事力を持つとします。果てしない軍拡競争で喜ぶのは軍需産業とそれと結託する政府です。犠牲にされるのはいつでも教育や社会保障の予算であり、市民生活です。

むつ・下北の様子をみれば一目瞭然です。農林漁業は衰退し、子どもの減少は極端です。学校の統廃合は近年に大きく進むことでしょう。そのような一般市民の状況の中で、「大湊基地」との関係性を密にし、若くして退職する隊員の就職先としての役割を担う職場があります。ここにも「軍事同盟」のしこりが深く生きています。さらに大型弾薬庫の建設という危険を持ち込もうとしています。今こそ「戦前」から「戦後」に目を向けての活動が必要です。平和を守るために本当に大切なことは何な

のか？ 9条が生きる平和憲法を活かすために市民と協力共同して『いのちとくらし』を守るために頑張りましょう。

《憲法9条を活かす活動の強化》

(1) 地域での活動

- ① 地域署名行動～対話活動の充実/青年層への積極的働きかけ/周辺部での署名行動の復活/地域での『協力者、会員』の育成と署名行動
- ② スタンディング行動～弁士の育成/署名行動との連携/郡部を含む各箇所での街宣

(2) 学習会、講演会の実施～緊迫した社会情勢に対応する学習の場を設定します。

(3) 「大型弾薬庫建設に反対する会」の活動の強化

- ① 安保3文書や規制法の学習や市民への教宣
- ② 市民の声を聞くことと運動の輪の拡大への努力

立憲民主党むつ下北支部は5月15日、むつ市来さまい館で升田1区総支部長を招いて第2回定期総会を開催しました。総会では10月のむつ市議選での杉浦議員の必勝を最大の課題とし、年内にも予想される衆議院選での議席獲得を誓い合いました。また、活動計画では黨員サポーターや市民を対象とした学習会の開催や各自治体での議員の誕生へ向けて党活動を強化していくことなどを確認しました。

また、能登支部長が風間浦村議愛議長に就任したことによる党籍離脱を踏まえ、以下の通りの新役員を選出しました。

《新役員・4役のみ記載》

- ・代 表 杉 浦 弘 樹 (新)
- ・副 代 表 目 時 睦 男 (再)
- ・幹 事 長 山 本 信 悦 (新)
- ・幹事長代理 栗 橋 伸 夫 (再)



山本新幹事長

フォーラム青森政治学習会、枝野幸男氏（立憲民主党前代表）を迎えて開催されました

社民フォーラム青森では去る5月21日、青森市内で枝野幸男衆議院議員を迎えて政治学習会を開催しました。

これは県内フォーラム会員より「立憲民主党の考え方がよくわからない」、「フォーラムの動きが見えてこない」などの意見があり、同党を立ち上げた際の代表でもある枝野氏に政治情勢について講演いただいたものです。

講演は「防衛力増強と防衛費増税について」と題して行われました。この中で政府や与党が今日の国際情勢、とりわけ北朝鮮ミサイル、台湾有事を大義名分に防衛力の大幅増強に狂奔していること、しかもその内実は米国のトマホークなどの購入が中心であり、いわゆる『敵基地攻撃能力』を持ち得ない代物であることなどが話されました。一方、こうしたことを追及する立場の立憲民主

党国会議員の中でも十分なスキルを持つ議員は数名に満たない現状を述べていました。観念的な非戦論や平和論を乗り越えることも必要だとも訴えていました。

また、野党共闘など次期国政選挙へのスタンスについては講演の事前質問項目に多くあったとして講演本題前に時間をかけて現時点での党の立場などが話され、次期総選挙へは党が一丸となっているとしながら、地域の実情を適格に分析して対応していくとしました。

質疑応答では多くの参加者から党勢拡大へ向けた地域活動や大衆運動の必要性が出されて、枝野氏は党として未成熟な点多々あり、社民フォーラムの行動力や組織力でカバーしながら強化したいと語りました。

フォーラム下北からは目時、栗橋が参加しました。



開会挨拶する藤田代表 来賓：升田世喜男氏 講師：枝野幸男氏 県内各地から50名ほどが参加しました

《立憲民主党の外交政策：世界の平和と繁栄への貢献～2022年度政策集より》

- ・ 世界の平和、安定と繁栄を推進するために、自由、民主主義、法の支配、基本的人権の尊重に基づく自由で開かれた国際秩序の維持、強化を推進し、国際法の諸原則を基礎とした国際的なルール作りを主導するなど、積極的な平和創造外交を展開します。
- ・ インド太平洋地域において、大国間の緊張緩和と信頼醸成のため、日米のみならず、二国間および多国間QUAD（日米豪印）ASEAN+3（日中韓 EU 諸国など）による航行の安全確保を含む安全保障協力・交流を促進します。国際協調主義に基づく、地域の航行と上空航空の自由と安全のためのルール作りなどを協議する新たな枠組みである会議体（例：自由で開かれたインド太

平洋会議）の設立を目指します。

- ・ 核兵器廃絶、人道支援、災害救援、経済連携、文化交流などを推進して人間の安全保障を実現するとともに、自国のみならず他の国々とともに利益を享受する開かれた国益を追求します。
- ・ ロシアの侵略を受けたウクライナ、北朝鮮、ミャンマー、ウイグル、香港などでの深刻な人権侵害に対して、国際社会とともに人権の蹂躪を即刻停止するよう働きかけていきます。人権侵害国や軍との宥和主義から決別し、人権侵害政府に対するODAを原則停止（ただし、人道援助は継続）します。

大型弾薬庫新設に反対する世話人会・大湊軍事施設ツアーや講演会などを計画

「大型弾薬庫新設に反対する世話人会」は5月16日に第1回の世話人会を開催し、以下の今後の活動の骨子を確認しました。活動の具体化は今後の課題ですが、参加団体が交代で事務局を担い進めて行くこととしました。

《活動のポイント》

- ・むつ市内外から参加者を募った大湊施設見学会の実施
- ・軍事専門家による講演会や学習会の開催
- ・メディアにアピールするための記者会見の実施
- ・街頭宣伝活動やシール意思表示行動
- ・むつ市や防衛庁などへの申入れ

《世話人会参加団体》

- ・社民フォーラムしもきた
- ・新婦人の会むつ支部
- ・全日本年金者組合むつ支部
- ・治安維持法国家賠償要求同盟下北支部
- ・日本共産党下北地区委員会
- ・むつ市平和委員会
- ・むつ生活と健康を守る会
- ・下北地域九条の会

※5月16日現在

海上自衛隊大湊基地の概要

大湊基地は、むつ市大湊町4-1、大湊町1-22、大湊町2-50、大湊町14-47、大字城ヶ沢字早崎2、大字大湊石橋25などの複数の地区に所在する海上自衛隊の基地の総称。

《成り立ち》

大湊に海軍が最初に配備されたのは、1902年（明治35年）8月1日に横須賀鎮守府所属の帝国海軍大湊水雷団が置かれたことである。もともと北海道室蘭市に「室蘭鎮守府」が設置される予定であったが、ロシアの脅威が差し迫っており、津軽海峡の防備を重視するために、大湊に変更されたといわれている。1905年（明治38年）12月12日に横須賀鎮守府から独立し「大湊要港部」に昇格。1941年（昭和16年）11月20日

に「大湊警備府」に昇格。1945年（昭和20年）8月、第二次世界大戦の敗戦により同年11月30日、日本海軍が解体され廃止となった。

1952年（昭和27年）8月1日に保安庁及び警備隊が創設されると、日本における海上軍事力の再整備も本格化し、1953年（昭和28年）9月16日に大湊地方隊が編成された。1954年（昭和29年）7月1日、警備隊が海上自衛隊に改組。5つの地方総監部のうち唯一旧海軍の鎮守府に由来していない。せず、また、隷下に教育隊が置かれていない。

《概要》

警備区域は、日本海側・太平洋側ともに青森県以北の北方であり、日本の北端部の海域・地域にあたる。

宗谷海峡と津軽海峡も担任区域内にあり、津軽海峡については、大湊地方隊隷下の松前警備所・竜飛警備所を中心に監視し、宗谷海峡については稚内基地分遣隊に加え、冬季を除いて艦船を派遣し監視にあたっており、特にロシア海軍の海峡通行について関心を持ち、監視を行なう。

砂嘴である芦崎に囲まれた水域が軍港であり、港湾の南西部には、大湊航空基地も整備されている。旧海軍が建設した修理用ドックを引き続き運用しており、海上自衛隊の基地で唯一、専用のドックを保有している。大湊にはもう一つ、釜臥山に航空自衛隊大湊分屯基地があり、防空のレーダーサイトを備えるが、海上自衛隊とは別の基地である。

旧海軍から現在の大湊自衛隊施設などの資料が展示されています～北洋館（旧大湊要港部会議所）

旧大湊要港部会議所は大正5年に当時の日本海軍士官の社交場として建てられた建物です。

終戦後、一時進駐軍に接收されましたが昭和28年に海上自衛隊大湊地方隊が発足されると大湊地方総監部や通信隊の庁舎として利用されました。

昭和56年以降は海上自衛隊展示資料館「北洋館」に改組し、明治35年帝国海軍大湊水雷団開庁から現在の大湊地方隊までの北方海上防衛の歴史資料の保存、展示が行われています。

現在は海軍室・海上自衛隊室・大湊地方隊室及び歴史室に3区分され約1千点余りの資料が一般公開されています。



【永下隧道】

この隧道は昭和16年施工で太平洋戦争開始と同年です。戦時中、大湊海軍の毒ガス弾は全てここに保管し、終戦直前には毒ガス弾60kg2000発が隧道内弾薬庫に保管されていたとのことです。その毒ガス爆弾は終戦後いち早く陸奥湾に投棄したと言われています。



断層深さ3千メートルを3メートルと誤る

5/29 東奥

大間原発の審査 入力ミスで中断

電源開発

大間町で建設している大間原発の安全審査を巡り、電源開発（Jパワー）が原子力規制委員会に提示したデータに入力ミスが発覚し、審査が中断している。

基準地震動（耐震設計の目安となる揺れ）策定に必要なデータのうち、断層の深さで「3千メートル」とすべきところを「3メートル」と誤った。同社は再発防止へ是正処置計画を策定した。

同社によると地震動評価に用いる断層データのうち、地表から断層面基準点（断層上端）までの深さを誤入力し、断層の位置が本来より浅い状態で解析してしまった。データシートの形式が「キ」の一方で、解析のための計算機プログラムは「ミ」表記。単位がそろっていないにもかかわらず、委託先の解析担当者が

手入力の際に変換を失念した。同社や委託先3社が入力や解析の結果をそれぞれ確認したが、ミスに気づけなかったという。

2022年12月に規制委員会から指摘を受けて発覚。今年2月の審査会合で規制委員会は「地震動評価結果そのものが間違っていたと認識しており、極めて重大な事案」（審査チーム担当者）と苦言を呈した。

同社は業務プロセス改善へマニュアルを改定。数値形式をそろえたシートの作成・確認、入力結果の全数チェックなどで再発防止を図るとした。4月に規制委員会へ示した資料によると、同社が他の審査項目でもミスの有無を点検した結果、類似のミスは確認されなかったという。

（佐々木大輔）

本ニュース4月10日号で「週刊金曜

日」の記事として掲載されたものが、ようやくニュースになりました。それにしても3千メートルを3メートルと誤るとは！

これが事業者のレベルとは驚きデス。

電気料金的大幅値上げが今より実施されます。その一方でこうしたムダな経費が大手電力会社で堂々と計上されているのが現実です。核燃サイクルの日本原燃へのこうした拠出も同様です。この矛盾についても、政府内部で値上げ認可前にも追及してほしいものです。

原電、原発停止でも黒字 大手5社の基本料金が支え

6年連続

原発専門の日本原子力発電（原電）が18日発表した2023年3月期決算は、最終的なもうけを示す純利益が前年比25・1%減の18億円だった。原発が1基も動かないなか、6年連続の黒字となった。燃料費の高騰で赤字だった大手電力も支払う「基本料金」が経営を支えている。

と述べ、原電への「最後通告」となっている。

村松衛社長は、18日の記者会見で「誤りがあったことを重く受け止めている」としつつも「我々にとって敦賀2号機は極めて重要だ。再稼働をめざして進め」と述べた。提出期限に向けて、関西電力や北陸電力、三菱重工から助言を得ているという。

23年3月期の売上高は前年比0・9%減の921億円、本業のもうけを示す営業利益が同58・9%減の24億円。原電がもつ敦賀2号機と東海第二（茨城県）の2基は11年から停止したまま10年以上発電していない。

「これ以上、審査をしない状態を長引かせない」と発言。さらに西村康稔経済産業相も「ラストチャンス」

と述べ、原電への「最後通告」となっている。村松衛社長は、18日の記者会見で「誤りがあったことを重く受け止めている」としつつも「我々にとって敦賀2号機は極めて重要だ。再稼働をめざして進め」と述べた。提出期限に向けて、関西電力や北陸電力、三菱重工から助言を得ているという。

れ続けている。23年3月期は900億円が入った。5社のうち、東北、東京、北陸の3社は23年3月期決算で純損益が赤字となり、家庭向けの規制料金は6月から値上げされることになる。大手電力にとっても、原発の原電が動かないのは苦しい状況だ。

昨年6月の関電の株主総会では、「対価なき巨額の支払いを続けることは、株主として承服できるものではない」として契約停止を求める株主提案があった。敦賀2号機が運転できないまま廃炉となれば、大手電力も経営責任を問われかねない。

（伊沢健司）

青森県を核のゴミ捨て場にさせない！

第38回 4・9反核燃の日全国集会

とき 2023年6月24日（土）14時から

ところ 青森市「青い海公園」

【実行委員会構成団体】

原水禁日本国民会議・原子力資料情報室・青森県反核実行委員会
核燃サイクル阻止1万人訴訟原告団・核燃料搬入阻止実行委員会

※今年は統一地方選のため、開催時期が2カ月以上遅くなりました



ウクライナ侵攻で問題となっている傭兵・民間軍事会社「ワグネル」とは？

傭兵（ようへい）とは？

金銭などの利益により雇われ、直接に利害関係の無い戦争に参加する兵またはその集団です。現代では民間軍事会社のような新しい形態をとり、国家の正規軍隊とは別に事業として国家間の戦争に雇い主の意向に沿った戦闘行為を行っています。

現在では、傭兵は国際法上で戦闘員として認められていませんが、アフリカの紛争では、民間軍事会社の傭兵が暗躍していると言われます。

国家が傭兵を使用あるいは支援を禁止することを明文化した『傭兵禁止条約』は 1989 年に国際連合総会において採択、発効しましたが、2008 年 11 月現在締約国は 32 ヶ国にとどまっています。

ワグネルとは？

 民間軍事会社 ワグネルとは？ テレグラムから ロイター プリゴジン氏 「ワグネル戦闘員以外は、誰もソレダル攻撃に加わっていない」 23年1月10日	創設年	2014年
	創設者	プーチン大統領に近い実業家 エフゲニー・プリゴジン氏
	規模	ウクライナ侵攻前 5千人 → 侵攻後 5万人以上？ ウクライナだけで5万人が戦闘に参加。 うち4万人が受刑者（今年1月の米政府の見立て）
	主な採用対象	ウクライナ侵攻前 22年後半～ 23年2月～ 元軍人ら → 刑務所の受刑者 → 受刑者の採用を打ち切り、対象を拡大
展開地域		・ロシアによるウクライナ南部クリミア半島の一方的併合や、ウクライナ東部ドンバス地方での戦闘などを経て活動範囲を拡大した
		・中東のシリアや北アフリカのリビア、スーダン、マリなどでも活動しているとされる ・各地で残虐行為に関与したという報告も

いちからわかる！

ロシアのウクライナ侵攻傭兵が参加している？

民間軍事会社「ワグネル」。5万人以上と推定される

Q ロシアのウクライナ侵攻に傭兵が参加している？
A ロシアの民間軍事会社「ワグネル」に所属し、戦場に送られる人たちのことだ。正式な軍の兵士ではない。刑を免除する代わりにロシア国内の受刑者らをさそって、ウクライナ東部バフムートなどの激しい戦いが起きている場所に送っていた。

Q ワグネルはどのぐらいの大きさなのか？
A 米国の政府は受刑者4万人をふくむ5万人以上と見積もっている。そのうち、約9千人が死亡したとしている。兵力不足にならざるに、一般の市民から動員（徴兵）せざるに。ロシアではワグネルのような傭兵は禁止されているが、プーチン政権は目をつぶっていて、中東のシリアやアフリカのリビアでも活動してきたとされている。

人生やり直すチャンスのはずが

弱みつけ込むロシアの大罪

視点
戦場で生き残れば、受刑者に自由を与える。ロシアは命知らずの男もいなかった。

まるで映画や漫画のストーリーのような信じがたい手段で戦争を続けている。ロシアの民間軍事会社「ワグネル」は、刑務所から受刑者をつまみあげるようにして、ウクライナ東部の激戦地に放り込んだ。

「ワグネルの戦法について戦闘員が表現した言葉が耳に残る。」
「人体のツナミ」
大量動員し、遺体が積み上がったままお進ませるおぞましい戦法だ。ウクライナ軍の位置を知ったために、捨て駒として使ったこともうかがえた。ロシアはプロパガンダを使いながら、人々の困窮、弱みにつけ込んで戦地に送り、侵攻を続けている。だが、最も被害を受けるのはウクライナ市民にほかならない。侵略を続け、戦争犯罪を重ねるロシアの罪の深さは計り知れない。（ドニプロ〈ウクライナ中部〉＝杉山正）

このページは朝日新聞 5月1日号から抜粋したものです

【編集後記】『ゼロ打ち』、選挙報道で、投票時間終了直後に特定の候補者の当選確実を報じることをそう言います。今回の知事選がそうでした。宮下氏の圧勝、地元出身の知事誕生に沸いています。トップダウンの政治姿勢がどんな形で青森県をけん引するのか、大いに注目していきたいものです。とりわけ2020年12月に『むつ市

は核のゴミ捨て場、最終処分場ではない』と明言しています。このことを今度は「むつ市」を「青森県」に置き換えてしっかりと対応していただきたいものです。市長時代の功罪はともかく、青森県民の『いのちとくらし』を守るために奮闘していただきたいと願うばかりです。一むつ市民として、その政治手腕は大いに期待します。

【奥戸＝おこっぺ】

大間町中西部に位置する「奥戸」地区は、対岸の北海道松前地区に最も近く、海路の拠点として古くから発展。町の中でも、いち早く開けてきた集落だ。

町史などによると、奥戸は、もともとは「オクノヘ」との呼び方だった、という説もあるが、アイヌ語に由来して名付けられたという説が最有力。アイヌ語で「オ」は川尻、「ウコッ」は交わる、「ペ」はものという意味。同地区では奥戸川と小川代川の二つの川が海岸線の近くで合流しており、こうした土地柄から「オコッペ」と呼ばれるようになったとみられている。

北海道の紋別郡にあり、同じ読み方の興部町も、興部川と藻興部川が合流してオホーツク海に注いでいたことから、アイヌ語がなまって「オコッペ」との地名になったとされる。地理的な条件は、大間町の奥戸と酷似しており、このことからアイヌ語説が有力という。

奥戸地区は、大間地区に並ぶ町の一つの拠点集落。本年は、防災公園に繋がる町道の整備が計画されている。

【易国間＝いこくま】

下北半島北部、津軽海峡を臨む風間浦村のほぼ中央部には、「易国間」という名前の地区がある。明治22年の町村制施行まで、易国間村として独立していた地区。

村史などによると、易国間は1454年ころには「湯野沢」という名で通っていたが、1457年ごろにロシアダッタンや蒙古の大使らが盟約を結ぶために着岸。その後も外国人がたびたび訪れていたことで、「異国の潤(船着き場)」と呼ばれるようになり、「異国間」との名前に変化していったという。

現在の表記に変わったのは、1805(文化2)年以降。当時の藩主・南部利敬が「『異』の字は穏やかではない」と、『易』の字に変更するよう令達し、易国間と記されるようになった。

易国間は古くから、海産物や林産物などの交易が盛んに行われて堅牢してきたとされる。現在も、村役場などの公共施設が集中。村では、中核として位置付けられている。

よくお寺などで「●●番札所」という表札を見かけますが…

田名部海辺三十三番札所とは

三十三番札所とは観世音菩薩を安置する寺堂三十三カ所のこと、三十三とは、『妙法蓮華経観世音菩薩普門品第二十五』（観音経）に説かれる、観世音菩薩が衆生を救うとき33の姿に変化するという信仰に由来し、その功德に与るために三十三の霊場を巡拝することを意味し、1300

年前に近畿地方に始まったとされ、三十三所の観音菩薩を巡礼参拝すると、現世で犯した罪業が消滅し極楽往生できるとされています。

この巡礼が盛んになるにつれて次第に各地に制定されるようになり、田名部海辺三十三番札所は約300年前頃とされています。



第十六番札所 大平神明宮

札番	山・院・寺号	宗派	住所	札番	山・院・寺号	宗派	住所
1番	吉祥山 円通寺 慈眼堂	曹洞宗	むつ市新町	18番	禅定山 法林寺	曹洞宗	東通村蒲野沢字村中
2番	月照山 清澤寺	曹洞宗	むつ市城ヶ沢	19番	祥巖山 長福寺	曹洞宗	佐井村佐井字古佐井
3番	慈眼寺 万人堂	浄土宗	むつ市田名部町	20番	祥巖山 長福寺	曹洞宗	佐井村佐井字古佐井
4番	八峰山 常楽寺	真言宗	むつ市大湊上町	21番	無量山 阿弥陀寺	浄土宗	大間町大間字大間
5番	大畑湊 延寿庵		むつ市大畑町湊村	22番	海雲山 長弘寺	曹洞宗	大間町奥戸字奥戸村
6番	東通村 桑原観音堂		東通村砂子又字新田	23番	尻屋 大光庵		東通村尻屋字村中
7番	東通村尻労 池徳庵		東通村尻労小倉	24番	不退山 常念寺	浄土宗	むつ市田名部町
8番	蟻光山 寶國寺	浄土宗	むつ市大畑町本町	25番	大利村白山神社		東通村大利字井戸尻
9番	円祥山 大安寺	曹洞宗	むつ市大畑町本町	26番	蛸崎村 流水庵		むつ市川内町蛸崎
10番	円祥山 大安寺	曹洞宗	むつ市大畑町本町	27番	仲崎 観音堂		むつ市川内町川内
11番	東光山 優婆寺	浄土宗	むつ市大畑町正津川	28番	牛滝村 真如庵		佐井村長後字牛滝
12番	観音山 浄土寺	浄土宗	風間浦村字下風呂	29番	大覚院 薬師堂		むつ市新町3
13番	北祥山 東伝寺	曹洞宗	風間浦村字易国間	30番	竜臥山 脇沢寺	曹洞宗	むつ市脇野沢桂沢
14番	長後 長寿院		佐井村長後字長後	31番	北関根 観音堂		むつ市関根字関根
15番	高林山 大海寺	曹洞宗	風間浦村字蛇浦	32番	八峰山 常楽寺	真言宗	むつ市大湊上町
16番	大平神明宮		むつ市大平町	33番	恐山 菩提寺	曹洞宗	むつ市大字田名部字曾利山
17番	月想山 心光寺	浄土宗	むつ市大畑町南町				